



障害者の ゆたかな未来をめざして



「絵カケタ ～次は地下鉄う～」 リサイクルみなみ作業所 成田 定雄さん ※紹介が11ページにあります。

CONTENTS

- ▶ 私たちの実践 ～障害のある人の『働く』を支える～ P2～3
- ▶ 平和の取り組み P4～5
- ▶ 障害のある仲間たちの高齢化と65歳問題..... P6～7

2022年9月10日 毎月1回10日発行 一部100円(法人会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます)

発行 / 社会福祉法人ゆたか福祉会 〒457-0852 名古屋市南区泉楽通四丁目5番地3
TEL 052-698-7356 FAX 052-698-7358 <http://www.yutakahonbu.com/>



愛知県ファミリー・
フレンドリー・マーク

ゆたか福祉会

検索

シリーズ 私たちの実践

「障害のある人の『働く』を支える」

第2回 トライズ

「クリーニング現場の実践」③

8年目までの推移と今後の課題



【事業と定員】
就労継続支援 A型 —15名
就労継続支援 B型 —15名

■現場の成長に見合った作業量の確保・質の担保

開始当初は洗濯の作業が少なく、色々な方にご協力いただき「来た仕事は何でも請ける」というスタンスで様々な洗濯に取り組みました。ゆたか福祉会の実践の中のノウハウや、他の洗濯現場での視察訓練等を経て準備してきたつもりでしたが、実際には始めてから気づくことばかりでした。

引き取りについては先方までの所要時間や車両の確保、納品については洗濯前の濡れた商品が予想以上に重く、担える仲間や職員に限られることが分かりました。

また下請けのタオル・マット類

に比べ、洗濯から出荷までの工程ごとに場所の確保が必要になり、各工程で滞らないようカゴ台車の導入や効率のよい入出荷の工夫が求められました。乾燥時間によつては光熱費が膨らみ、利益が少ない商品は時期をみてお断りもしてきました。

トライズの敷地面積や建物の狭さから「単価が高く、高付加価値の私物洗濯を請け負いたい」と考え、高齢者施設の営業も行いましたが、思うようには広がりませんでした。私物たたみへのステップアップになると考えて始めた作業も扱う種類が多く、仕分けや個数管理が複雑すぎるものは仲

間の主体的な作業につなげるのが難しいこと。異物混入や汚染がひどいもの、数が多すぎたり質を問われないものは他の作業への悪影響がありました。

現在は私物洗濯を軸にしつつ、仲間がこなしやすいタオル・マット類を組み合わせて作業をしています。今でこそ『一定の量をこなして続けることで、二次曲線的に作業の品質（＝仲間・職員の現場の力）が上がってくる』と言えますが、その前提として「仕事としてのしくみ・標準化」を集団で確立・推進していく必要があります。

作業所職員の仕事は、仕事づくりに始まり、仕事づくりに終わると言われます。どんな仕事でも一

定期間やってみないと分からないことが多く、仲間と試行錯誤するところに醍醐味があると思います。しかし、洗濯のようなインフラ的な事業は一度受けてしまうと簡単にはやめられません。洗濯事業を通じ、改めて作業の確保の難しさを痛感しました。適切な作業量と質の追及は永遠の課題です。

■仲間の力量・主体性を引き出すための

しくみづくり

作業内容が固まってきたため、動線の整理を始め5S活動に取り組みました。私物洗濯とタオル・マット類のラインを分け、それぞれ機・台車などの設備を壁ぎわに設置することで、作業の進行具合が明確になりました。また通路と床面が広がることで、運搬が楽になり、洗濯物の落下や混入ミスも減りました。具体的には

- ①整理 不要なものは処分 私物洗濯は混ざらないよう一人ずつカートンで管理
- ②整頓 物の置き場所を決めて



チェックする仲間

表示し、元に戻す

③ 清掃 手すき時間はもちろん、曜日と時間を決めて清掃

④ 清潔 整理・整頓・清掃を心掛ける他、コロナ対策も含めて換気を実施。特に冬場は、手指消毒に加えて保湿も行い、手荒れによる血のにじみなどにも留意

⑤ しつけ ミスは必ず起こる。みんなで共有化して予防するしくみづくり

に取り組んできました。

ミスが起こりやすい私物は、工程ごとに複数回、個数をチェックし、ミスが発生しやすいイレギュラーな場面（生乾き・靴下が片方・他人の服の混入）では、職員のチェックをはさみつつ、複数の目で確認するようにしています。

あわせて、働く現場としての雰囲気を高め、仲間が自主的に作業を回すために、作業の節目となる朝・昼・帰りの会を見直しました。全員集合後、誰がこの場所での作業を行うのか、作業の優先順位と納品などを確認しあいます。作業と休憩の切り替えがうまくできない仲間や、他人の動きにイライラする仲間、自己判断でのミス、指示待ちの仲間もいましたが、交代で司会を担い、納品・入荷の流れを皆で確認しながらお互いの役割を確認することで、協力する力が伸びたように思います。

洗濯のたみは一見、簡単そうにもみえますが、物によってその都度判断が必要となり、日によって作業量変動する為、見通しが持ちにくく疲れがたまりやすい作業です。腰痛・疲労対策として、朝と昼にタブレットを活用したラジオ体操を導入しました。色々な画像やお互いの動きを見つつ、音楽に合わせて体を動かすことで、自然に笑顔があふれ楽しく

仕事に向かうための準備場面になっていきます。

当初はラジオで音楽を流したり、雰囲気盛り上げるために教えて会話を交えながら作業していた時期もありましたが、現在は私語が減り、目の前の作業に集中できるようになりました。仲間の力を引き出すためには、職員集団の安定が前提です。忙しい中でも夕方を止め、職員間でふりかえる時間をつくるように心がけています。

■持続可能な

現場づくりのために

過去の資料を見直すと、特に苦しかった立ち上げ当初3年間の写真や動画が多く残されており、担当職員の苦心を痛感しました。色々な職員が関わる中で、2021年度の売上は過去最高の2千万円を超え、工賃も月平均3万円をようやく上回りましたが、いまだに担当する職員の能力や努力に委ねられる部分が大きいといえます。

日々現場を回すのに追われ、肝心な機械類の設備点検が不十分だったため、定期点検を計画的に行っていく必要があります。また物価高騰の中、洗濯方法や洗剤を見直すことで、消耗品類や水道光熱費をおさえる方法を模索中です。劇的な速攻策はないため、日ごろの気づきやヒヤリハットを一つずつ皆で共有・改善し、現在の敷地内で行えることを行いつつ、法人内でも検討して洗濯事業がより良い形で発展していければと思います。

仲間にとって洗濯作業の良さは、洗濯物を通じてお客様の生活を支えていることが分かりやすく、身についた技術が日常生活でも活かされることです。SDGsの8つ目の目標「働きがいも経済成長も」すなわちより高い工賃とやりがい、仲間の強みが活かされるディーセントワーク（decent work）を、これからも地道な日々の積み重ねの中で模索していきます。

小関さと子

「ウクライナ支援ゆたか福祉会関係者の集い」を開催しました

この集いは、当初ハイブリッドでの開催予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、各事業所からのオンライン参加となりました。当日は運営スタッフ等とあわせて、約120名の参加がありました。この日は77年前、長崎に原爆が投下された「原爆の日」ということで、犠牲者への黙祷を捧げスタートしました。

今回の集会は理事長より、「ウクライナへの軍事侵攻で、障害者をはじめ多くの人々が大変な危機に直面している。こうした人々の支援のため、関係者のつどいを開催してはどうか」との提案を受け準備されました。企画内容の具体化については、今年度から立ち上がった「障害者や高齢者の暮らしを守る運動推進会議」のメンバーを中心に、進めてきました。企画を実施するにあたっては、

きょうされんを通じてウクライナ障害者国民会議からのビデオメッセージを依頼させて頂いたり(当日は手紙の代読)、名古屋にある特定非営利活動法人ウクライナ文化協会を訪問し、理事長の川口リュドミラさんにお話を頂けるよう調整してきました。

当日、避難者の受け入れなどでお忙しい中、ご参加頂いた川口様からは、日本に来られた方々が避難生活がどれだけ続くか分からない

ため、不安を抱えて暮らしていらっしゃる現状などについて、言葉を詰まらせながら伝えて頂きました。

会場に訪された多文化ソーシャルワーカーの神田すみれ先生からは、「川口さん達の活動があるからこそ、ウクライナから避難してきた皆さんが日本語の勉強をしたり、仕事や住居を探すことが出来たりしている」というお話がありました。また川口様は「冬を迎えるにあたり、支援物資(マイナス20度ぐらいになる所もあるようで温かい肌着など)を現地に送りたい」との話をされました。

続いて行われた法人内からの報告では、保護者連合会・自治会連合会の両会長の挨拶後、事業所ごとに活動交流が行われました。(広報誌8月号「平和の取り組み」、今月号5ページ参照)ほとんどの事業所で、平和の学習やウクライナ支援の募金活動が積極的に行われていることが報告され、なかまたちの平和への熱い想いが共有できました。

私は、戦争により核兵器・原子力発電所が攻撃される恐怖が身近にあること、沖縄に生まれ、あの頃感じていた戦争への恐怖を皆さんに伝えたいと感じています。そして、今集会で知った戦争の恐ろしさ、悲しみ、平和の大切さを参加者だけに留めるのではなく、各事業所で皆さんと共有し、行動に移すことのできる小さな一歩のきっかけになればと思います。

ゆたか生活支援事業所あつた 阿部直美

集会アンケートの感想

〈仲間〉

- ・ 難しい話だったけど、仲間の会の報告を聞いて、自分達でもできる、役に立つ事を知れた。そして、やってみたいと思った
- ・ ウクライナの人と、直接話したい
- ・ 作業所ではウクライナの事を知っている人はあまりいなかったから、みんなに役員から伝えていく事をしっかりやっていく。困っている事がわかったので、募金活動をして、お金を集め、渡したいと思った
- ・ 「火垂るの墓」をみんなで観ようという話が出た
- ・ 日本の歴史をロシアは学んで欲しい。広島や長崎を見てきて欲しい
- ・ ウクライナの人も日本で共に働いたらと思った。温かい下着をたくさん送ってほしい

〈職員〉

- ・ ニュースや報道だけでは知りえないことが聞けた貴重な時間だった
- ・ 生き延びてほしいと思った。自分に出来る事を考えていきたい
- ・ 仲間たちが積極的に、自分たちにできることを考え行動していることに感動した
- ・ 平和の学習会をやっているのを聞いて、自分たちももっと勉強しなければと感じた。
- ・ 日本に避難してきている人たちに、もっと支援をしていきたいと思った。
- ・ 長く無理なく続けられる支援策を考えたい
- ・ 平和学習会を仲間の視点で一緒に考えていきたい。



平和について考えました〜ウクライナ支援「できる事って何だろう」〜

ゆたか
生活支援事業所
かさでら

ひまわりを育て
Tシャツを着て応援



コロナの影響で、平和を願いながら折った千羽鶴を広島平和記念公園に捧げに行くことが難しくなっていました。そんな中、日々ニュースで流れるウクライナの戦争の様子。

映像を目にした仲間の口から「平和が幸せ。戦争はダメ」という言葉を耳にします。『私たちに今、出来る事って何だろう』『何かしら力になりたい！』そんな想いを「ウクライナ支援Tシャツを通して伝える事が出来れば」と皆で考えました。

ウクライナ支援Tシャツには、ウクライナの国花であるひまわりが、青空を背に伸び伸びと咲いている姿が描かれています。「大輪のひまわりの花が咲く平和な日常が、一日も早くウクライナの方々に訪れますように」。私たちの平和を願う気持ちが届くことを皆で願いました。

片桐 由麻



Tシャツを着て応援!



仲間が種から愛情を込めて育てたひまわり

リサイクルみなみ
作業所

休憩時間に募金活動
缶ジュース1本の
募金を!〜



リサイクルみなみ作業所では、毎年原水爆禁止世界大会へ向けて行われる平和行進の時期に合わせて平和学習を行っています。昨年は『核兵器禁止条約』の発効について学びました。今年は2月から続くロシアによるウクライナへの軍事侵攻について、「戦争や暴力は絶対いけない」「対話が大切だ」と学びました。

そんな中、自治会連合会から支援カンパの提起がありました。「戦争のニュースが多い。自分たちにできる事があればやりたい」と、自治会役員で話し合い、自治会費から支援金を送るのと提案することにしました。さらに「もう少し集めたい!」「ボーナスも出たし、『缶ジュース1本ずつくらい募金をお願いします!』と呼びかけよう」と、意見が出ました。

日々、命の危険にさらされているウクライナの人たちのことを考えながら、作業の休憩時間を使って役員が募金箱を持ち、館内を回りました。

大野 歌織



休憩時間に募金活動



自治会役員の皆さん

ワークセンター
フレンズ星崎

メッセージを
ウクライナ国旗に託して

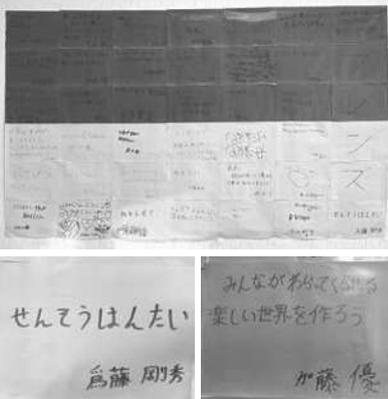


フレンズ星崎では毎年、平和の学習会をおこなっています。今回は今起きている戦争について学びました。

みんな、ウクライナで起きていることを動画で見ました。建物や車が破壊されていくようすや市民が軍隊に攻撃されている姿をみて、仲間からは「こんな怖い事が起きているの?」「ロシアは広島や長崎を見てきて学んでほしい」「ウクライナの人たちを応援したい」と率直な意見が出ていました。

「私たちにできる事は何だろう」と考え、みんな黄色と青色の紙にメッセージを書き、そのメッセージを役員で貼り合わせて、大きなウクライナの国旗を作り食堂に掲示しました。ウクライナの人達に平和が訪れるようにみんなが願いを込めました。

山田 麻未



せんとうはんたい 為藤 剛秀

みんながめぐる楽しい世界を作ろう 加藤 優

第3回

障害のある仲間たちの高齢化と65才問題

「高齢事業における看取りの実践」

はじめに

グループホーム宝南の家は、認知症の高齢者が家庭的な環境のなかで、利用者とスタッフが家事などの日常的な活動を共同で行うことにより、認知症状が穏やかになり、安定した生活と、本人の望む生活を実現することが目的です。慣れ親しんだ生活様式を維持し、地域社会との関係を大切にしたい、生活者としての役割をもった暮らしを目指しています。

2005年から事業展開をしていますが、介護量が増え寝たきりになってこられますと、家族の思いに従って特別養護老人ホームや医療が整った有料老人ホームへと引越せられる方が多くいらっしゃいました。しかし中には慣れ親しんだホームで、親しくしている利用者やスタッフの環境下で「最期まで暮らしたい」と求められる利用者やその家族の思いが聞かれるようになってきました。

またこちらの対応の不安から、ご無理をいつて退去していただいたものの、退去先でわずか1か月で亡くなったという方もあり、「最期ま

で見てあげるべきだった」と後悔することもありました。

Iさん 親子の思い
「ホームで最期まで暮らしたい」

スタッフは日中9人の利用者を3人で、夜間は1人で支えています。医療職は週1回1時間程度の健康観察に来る訪問看護しかなく、日常的に医療行為はできません。そんな環境下でも2021年11月の方も含めてホームで最期を迎えられた利用者はこれまでに4人いらっしゃいます。その中で最初の看取りの実践となった、Iさんについてお伝えします。

Iさんは2015年、西区でお一人暮らしでしたが肺の病気の入院がきっかけで、南区に住む一人娘さん宅のそばにある有料老人ホームにいったんは入居されました。ですが馴染めず、主治医の提案で宝南の家に来られました。耳が遠いこと以外、家事は皆さんと協力して活躍されており、毎週日曜日に信仰されている礼拝に娘さんと出かけられるのが楽しみでした。2016

年には散歩中に転倒されて、大腿骨頸部骨折により2か月ほどの入院もありましたが、熱心になりハビリをなされ無事に歩けるようになってホームに帰ってこられました。

嘱託医が月2回訪問して健康管理をされますが、たまたま行った検査で重篤な貧血が見つかりました。すぐに総合病院を受診したところ、腸管悪性腫瘍の可能性があり2017年6月19日に入院をしました。輸血は実施しましたが、治療目的となる様々な検査を娘さんは求めませんでした。

それは検査や治療そのものが本人の体力を奪うこと、苦痛を伴うことであり、すでに90歳を迎え、およそ癌であることは間違いなことから「自然の流れに従いたい」という強い決断でした。親子が話し合った最期の迎え方でした。

総合病院側は、治療をしないのであれば輸血も必要はないと、退院を求めてきました。「退院後はホームで最期まで暮らしたい」という親子の思いがありました。

■ Iさんと向きあいながら 「退院後のホームでの生活」

一度も看取りをしたことが無いホームとしては、何を整えるべきかを検討しました。

まず、現在のクリニックの往診ではなく、24時間対応する専門の訪問診療医に変更しました。もし医療的ケアが必要になったら、認知症グループホームでは介護保険で訪問看護が導入できないため、医療保険で入れるように訪問看護をお願いすることにしました。また、あくまでホームは介護しかできないことから、看取りのための計画書を作成し、それぞれの役割が分かるように準備しました。

同年7月3日に看取りの対応として退院されました。当時のIさんの能力は伝い歩きや排泄はできていましたが、食欲不振が続く介助をして貰っていたので、顎関節が硬くなると大きき口が開かなくなり、本人も食べることに苦痛を感じているようになってきました。食事量も必要な栄養を得るというよりは、「食べたいときに好きなものだけを摂る」という方向に変化しました。7月19日にトイレへの移動中に転倒され、その後は車いすとなりました。主治医からは「骨折したかもしれない」とのことでしたが、治療は行わず、苦痛を取り除くための最小限の医療行為のみをしました。排尿はバルーンを留置しバックに溜めることに

なり、色と量を記録し看護師に定期的に報告しました。医師は深夜でも気になることがあれば様子を診に来てくださり、必要な指示をされました。発熱があれば、身体を冷やしたり解熱の座薬をしたりもしました。皮下点滴という、ゆっくり腹部からしみこむような点滴を施行するようになり、部屋で過ごす時間が増えていきました。自発的な動きは少しずつ減ってきていました。

■ 看取りの支援から学んだこと

娘さんは毎日時間があると様子を見に来られました。部屋にCDコンボを持ってこられ、好きな音楽をかけて穏やかに過ごせる空間を作られました。時間があるときは本人の部屋でできる限り過ごされて、娘さんは本人のそばでいつも絵を描いていました。7月25日から夜も泊まられ、残された親子の大切な時間を紡いでいました。時々居室にはホームで生活を共にしてきた利用者が様子を見に訪問し、身近な話をなさったり手を握ったり、身体をなでたりされていました。娘さんだけでなく、本人にとって身近な家族や知人が度々会いに来られました。

7月25日の往診時の先生からのお手紙の内容です。

聞こえないと思い込んで、その人が目覚めているときに言わないことを目の前で言わないように

してください。聴力は五感の中でも最期まで残ると言われています。

実際には存在しない人や物が見えたりしますが、驚かないでください。混乱しているようなら、静かに安心できるように話しかけてください。

死が近い状況を受け止め、7月28日に点滴を終了しました。バックに尿は殆どありませんでした。7月29日、深夜ふだん聞かれない「ハアハア」という声が聞こえました。早朝6時35分、Iさんは涙を流され口から唾液もありました。「行っちゃうの？行っちゃうの？」という泣かれる娘さんの声とともに、安らかに美しい表情でこの世から旅立たれました。最初の看取りの実践でした。

生は喜びと感動を得ますが、死もそれ以上に感動があります。その人の生きざまを身近に感じながら「人生とは何か」を学ぶことが出来ます。「死は自然なこと」ということ。看取りの実践は私たちに、「その貴重な時間の中で何ができるか」を考えさせてくれます。



ケアサポーター宝南 岡山加代子



3年ぶりに対面で 法人事業所説明会を開催しました

ゆたか福祉会では、特別支援学校高等部の在校生やそのご家族を対象にして、事業所説明会を毎年開催してきました。卒業後の進路を検討する際に参考にしたいだけに2時間ほどのプログラムで、制度を利用する手続きの説明や、各事業所の支援内容を紹介しています。あわせて、ゆたか作業所の仲間たちや職員の支援の様子も直接ご覧いただけます。

この間、コロナ感染症の拡大で中止が

続いていましたが、感染も落ち着いてきたのでようやく3年ぶりに開催することができました。密にならないように本部会議室で7月5日、13日と2回にわけて行い、計14名のご家族の参加がありました。

ゆたか福祉会の就労・日中活動事業所のなかには定員割れとなっているところもあり、利用者の確保は重大な経営課題となっています。周辺にはさまざまな特徴をもった事業所が開設されてきており、利用者募集のきれいな広告もよく目にするようになりました。「どうやって事業所を選べばいいのかから困っている」という参加者からの声もありました。

選択肢が増えているといっても、福祉事業とはほど遠い実態の事業所もあります。そうしたなかに埋もれてしまわないように、私たちも情報の発信のあり方を工夫していかなければなりません。ゆたか福祉会の事業所の魅力を広く伝えていけるように、また在校生やご家族との対話の機会としても、こうした取り組みを充実させていくことが大切だと思います。

就労支援事業推進委員会 山崎利浩

2022年

共同墓地 盆供養祭 開催

8月2日(火)、ゆたか福祉会保護者連合会「共同墓地盆供養祭」が行われました。

今年も新型コロナウイルスの感染者数が増加傾向の中で開催となりましたので、感染防止のため事務局である福祉村両施設長のみの参加で行いました。共同墓地管理委員会もコロナ禍前は盆供養祭後に開催していましたが、書面での交流とさせて頂くことになりました。

当日は快晴に恵まれ晴れ渡る空の下、なごみの塔の墓前及び大蔵寺本堂で読経とともに焼香を行い、故人を偲びました。コロナ禍前は、保護者連合会や法人から多数の参列をいただき、1年に一度、顔を会わせ、言葉を交わす大事な機会でもありました。

感染防止のため、少数での開催となりましたが、皆様のご供養の気持ちも込めて執り行わせて頂きました。

グループハウスなぐら 荒川元仁





今回で3回目

2022年度入職 正規採用職員を対象に 「安全運転講習」を開催しました！

はつめい

一昨年度から新たに「正規採用職員研修」として位置付けスタートした「安全運転講習」。今回も講師は昨年と同様に「株式会社アトコ安全運転支援室」にお願いました。

昨年からの変更点は、当日使用する車を自動車学校の教習車でなく、「できるだけ日常の車で慣れてもらおう」と本部の公用車に対応したこと。そして路上講習を、ゆたか作業所・本部の駐車場と周辺の道路で行ったことです。

講習内容は駐車や乗降などの技能講習、路上走行講習、OD式適正検査と講義。今回は11事業所から14名の方が参加しました。職員の感想を紹介します。

みのり共同作業所 山本祥真

私は免許を取得してからあまり車に乗ることがなく、運転に対する苦手意識があります。適性検査では、自分の運転の特性を知り、運転するとき
に注意することを学びました。走行講習では、安全に気を取られすぎて車をゆっくりと運転すること
としかできなかったため、講師の方からは「安全で円滑な運転ができる」といい」とアドバイスをいただきました。

今後も運転する機会はあると思うので、今回の安全運転講習を活かして、安全で円滑な運転を心掛けていきたいです。

ゆたか生活支援事業所みなみ 橋本実波

免許をとって以来、自分の運転について見直す機会がなかったため、安全運転講習で自分はどうな特性があるのか、どんな所に気をつけなければいけないのかを再確認することが出来ました。
運転するときには、細心の注意を払ってどんなポイントで事故が起きやすいのか考えていけるよ

うになりたいと思います。特に、職員になってから自分一人だけでなく、仲間を乗せることも増えました。この講習で習ったことを忘れずに、常に安全運転を行っていききたいと思います。

リサイクル港作業所 岸野翼

適性検査では自分の特性を知ることができ、自分が運転をする中で何に気をつけるべきか知ることができました。また技能講習の中では、ブレーキをかける始めるタイミングなど、自分が普段運転する中であまり意識できていなかったことを教えていただき、運転をして行く中で改善すべき点が明確になりました。

今後は仲間を乗せて運転する機会も出てくると思うので、今回の講習での学びを活かし、安全な運転をしていきたいです。



昨年度の法人全体での事故件数は20件、一昨年度と比較すると増加傾向にあります。特徴は比較的新しい職員の小規模な事故が多かったことです。今年度はコロナ対策も緩和の方向性が出され、行事等で出かけることも増えると予想されます。

法人全体では今回紹介した安全運転講習をはじめ、出張運転技能診断や安全運転推進ニュースの発行などを行っています。各事業所へも日々の安全運転推進の取り組み強化と、職員の皆さんへの注意喚起をお願いしているところです。

私のおすすめ
読んでみませんか

『循環型人材確保育成と ベトナムとの国際協力』

真の外国人労働者との協働を展望する
循環型人材確保育成とベトナムとの国際協力

慢性的な人材不足が続く福祉介護の現場で、海外人材が働く時代はもう当たり前の状況になりつつあります。2019年からゆたか福祉会を含む愛知の3つの社会福祉法人（社会福祉法人愛光園、社会福祉法人名古屋ライトハウス）が協同して、ベトナムでの海外人材確保と育成の取り組みを行ってきました。

昨年、公益財団法人ヤマト福祉財団の助成を受け、この愛知の3法人とベトナム・フエにある国立フエ科学大学と現地の関係団体との提携の取り組みを報告書としてまとめました。

今回はこの報告書を基に必要な加筆・修正を行い、写真なども加えて再編集し、書籍として出版することになりました。この本では何故、海外人材をテーマに取り組んできたのか、

その経過や海外人材をめぐる制度動向や周辺の状況などが報告されています。それだけでなく、この取り組みに係わった様々な人達の想いがリアルに報告をされています。

ベトナム・フエ科学大学関係者の報告、ベトナムの若い人達の日本への想いなども含め、本全体を読んでもらえると、本の表題の最初の「循環型」の意味が解って頂けるかと思えます。

私達の取り組みは、まだ試行錯誤の状況です。コロナ禍で遅れていたこの取り組みの第1期生の来日の目途が立ったことから、「株式会社クリエイツかもがわ」さんの協力で出版の運びとなりました。

この書籍は、ゆたか福祉会本部で取り扱っています。ぜひお問い合わせ下さい。

はじめに

第I部 なぜ「ベトナム人介護労働者」なのか

- 第1章 福祉業界の採用市場の変化
- 第2章 介護分野における介護人材政策の現状
- 第3章 ベトナムでの縁と巡り合わせ
- 第4章 愛知県の現状と多文化ソーシャルワーク

第II部 ベトナムの未来を見据えて

- 第5章 ベトナムのソーシャルワーク政策と実践
- 第6章 フエの若者や障害者を巻き込んだコミュニティ
- 第7章 ベトナムの若者が受け止める日本

第III部 求められる社会福祉現場の変化

- 第8章 外国人労働者とともに働く
- 第9章 介護技術講習から見るベトナム人材
- 第10章 パートナーシップに基づくベトナムでの福祉・介護人材確保

あとがき



編著者 鈴木清覚・佐野竜平
発行所 株式会社クリエイツかもがわ
定 価 2,200円 (税込み)
取扱い ゆたか福祉会法人本部
Tel 052-698-7356



表紙の作者紹介

「絵カケタ ～次は地下鉄う～」

リサイクルみなみ作業所 成田 定雄さん

リサイクルみなみ作業所の画伯といえば定雄さんです。この作品はご自宅で自由に製作されたものです。いくつもの絵を描いては貼り、剥がしては描きなおしてコツコツ一人で作り上げられました。たたみ4畳をこえる大きな作品です。直接、生で見ると圧巻で鳥肌が立つほど！

最近では、大好きな電車以外にも、文字やモデルルームにも興味が出てきたそうです。お休みの日には、のんほいパークや水族館の本のコーナーで、何時間もスケッチするのがお気に入りの定雄さん。作業所でもたくさんの方の似顔絵を描いてくれて、もらった方は感動のあまり涙する方もいるほどです。魅了される作品をこれからも楽しみにしています♪



2022年1月17日より、郵便局(ゆうちょ銀行)の 払込取扱票での手数料が新設されました。

これに伴い、郵便局の窓口やATMでの現金による払込の場合、払込料金とは別に、1件ごとに手数料110円がかかります。

当法人は「払込料金加入者負担(払込料金はゆたか福祉会が負担)」ですが、加算料金は別途ご負担いただく必要がございます。皆様にはご負担をお掛け致しますが、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

尚、通帳またはキャッシュカードをご利用いただき、口座から支払う場合には加算料金はかかりません。

法人協力会費・賛助会費・寄附金など福祉会への申し込み、ご送金は

法人協力会費 = 年間 1口 6,000円、
賛助会員(個人 1口 3,000円、企業団体等 1口 5,000円)

●銀行口座 名義はいずれも社会福祉法人ゆたか福祉会

・三菱UFJ銀行 柴田支店 普通預金 291-884
・中京銀行 鳴海支店 普通預金 150-425

●郵便振替口座 00820-8-54026 社会福祉法人ゆたか福祉会



7月

- 5日(火) 保護者連合会定例会
- 6日(水) 主任フォローアップ研修
- 7日(木) 安全運転講習
- 11日(月) 事業運営推進会議/
きょうされん愛知支部懇談
- 13日(水) 新管理職研修/SDGs委員会
- 18日(月) 広報・ホームページ編集委員会
- 20日(水) 所長会議
- 25日(月) 2022正規採用職員
「援助担当者会議」/
研修部会議/
強度行動障害者
支援者養成講座(基礎)～26日
- 27日(水) 副所長会議

第一回 口頭弁論期日のお知らせ

この間、広報誌上でも紹介してきました消費税の更正請求(還付請求)は、現在司法の場に舞台が移っています。今年2月10日の国税不服審判所の棄却決定を受けて、7月19日名古屋地方裁判所に提訴しました。改めて次回の広報誌上で内容を特集(連載)する予定ですが、第一回口頭弁論期日が決まりましたのでご紹介します。傍聴が可能ですので、参加を希望される方は「ゆたか福祉会本部」までお問合せください。

◆◆ 第一回 口頭弁論 ◆◆

日時 2022年10月5日 10時30分から
場所 名古屋地方裁判所 第1102法廷

広報・476号

2022年9月号(2022年9月10日発行)

定価 1部100円

法人協力会員・賛助会員は
会費の中に購読料を含みます

発行・編集 / 社会福祉法人ゆたか福祉会

印刷 / 株式会社東海共同印刷

その人らしく働く 暮らす

Vol.104

仲間



「いままでと ちがうやりかたで 軍手の MUKI を、みんなで かんがえて やってみよう」

ゆたか作業所 内田 佑さん

ぼくは、三二歳になりました。養護学校高等部を卒業したあと、ゆたか作業所で働き、十数年がたちました。

ぼくは、ゆたか作業所が大好きです。みんなと一緒に仕事する事が、とても楽しいです。

①いままでと、ちがうやり方で向きを考えて、軍手二十枚の束のしぼりが、できるようにになりました。ぼくは、右手にまひがあるけど、クリップを使って工夫してやったら、バッチリとできるようになりました。すごくカチンコチンに、きつくしぼれるようになりました。ぼくは、できるーとすごく嬉しくなりました。

②新しい仕事（工程）に挑戦をしています。軍手の完成品の大袋入れです。今、練習しています。上手になりたいです。

③現場改善の係りで、仲間の



挑戦してできるようになったよ!!

道具を入れる箱（収納棚）を作りました。みんなのことを考えるのが得意です。しまつところに、ひとりひとりの顔写真を貼るアイデアを、僕が考えました。それから、軍手の生産数がわかるように、壁に空袋をつる洗濯バサミを付けました。これも、ぼくのアイデアです。軍手の大袋が空になると、できたよーとみんなで励まし合っています。

職員



「これからいろいろなことに 挑戦します!」

ゆたか生活支援事業所みなみ チャウティミーリン

大学3年の夏に、ゆたか福祉会の『ベトナムの視察・研修』に通訳

として同行しました。この視察に参加して、ベトナムと日本を繋ぐ架け橋になること、そのサポートをする仕事をしたと思います、ゆたか福祉会への入職を決めました。

ゆたか福祉会に入社する前は、福祉の仕事の経験はありませんでした。事業所みなみのグループホームで働き始めて、不安な事や分からない事がありました。いつも一緒に働いている職員の皆さんに優しく教えていただいたので、安心して仕事ができるようになりました。大変な事もありますが、仲間たちと一緒に笑い合っている瞬間が幸せで、それが私のやりがいにつながっています。初任者研修を受講し、福祉について知識を深めて仲間たちのことを理解し、尊重しながら支援していきたいです。

フ工科大学での介護技術講習



笑顔を大事に

ゆたか福祉会で働いて2年目になりましたが、日本語や仕事はまだわからないことがあります。早く一人前になれるように精進していきます。これからもよろしくお願ひいたします。